

# 【令和7年度 自己評価結果公表シート】

学校法人直江津龍谷学園 真行寺幼稚園

## 1. 本園の教育目標

### (教育目標)

「浄土真宗の精神」にのっとり、宗教的情操の豊かな人材を教化育成することを目標とする。

### (教育方針)

- 1) 「仏さまをおがむ子」 たくましい豊かな心をそなえた子
- 2) 「ありがとうの言える子」 感謝と協調のできる子
- 3) 「よく聞く子」 聞く態度を身につけ、探求と創造と自立を目指す子
- 4) 「なかよくする子」 助け合うことに喜びを感じ、仲間作りにはげむ子

## 2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

### (本年度の重点計画)

#### 1) 主体性を育む <5カ年計画 4年目>

これまで3年間取り組んできたものを踏襲しながらも、見直しや改善点を探る1年とする。最終年度におけ、今後も継続できるような当園ならではの方法を確立する。

#### 【行事】

・「主体性を育む」行事にするため、3年間かけて全ての行事の開催方法や内容を改善してきた。うんどう会とおゆうぎ会に関しては、細かな改善で対応できる。作品展に関しては、改善の余地がある。

・年中児が作品展とおゆうぎ会のテーマを統一し、大きな成果があった。年間を通して、様々な行事や活動を結びつけ、より興味関心が深まるよう企画したい。

・令和8年度から、年長、年中、年少がすべて2クラスとなる。行事に関して開催日程や内容など、大きく転換ができる機会となるので、しっかりと検討準備をしていく。

#### 【通常保育教育時間】

・縦割り保育（学年、クラスにこだわらない保育）を推進する。上の学年の子ども、下の学年の子ども、どちらにとっても大きな刺激や学びがある縦割り保育を、気軽に日常的に行えるようにする。クラスを越えた学年間の取り組みや、学年を越えた異年齢の交流などから更なる「主体性」を発揮できる環境を整備する。

#### 2) 教職員の働き方改革

・保育の質を高めるためには、教職員の心身の健康を保つことが必要。労働時間を守り、必要な休養時間を確保できるよう、人員を配置し、業務内容を見直す。また、教職員一人ひとりが労働時間を守るよう、意識し、互いに協力することも必要。

・質の高い保育と教職員の働き方のバランスをとりながら、行事や保育内容の改善を図る。

・休日出勤を減らすため、令和8年度から、「入園式」、「花まつり（年長稚児参拝）」、「おゆうぎ会」、「卒園式」などを平日開催にできるよう準備検討する。

### 3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	結果	理由
<p>「主体性」を育む            &lt;5カ年計画 4年目&gt;</p>	<p>A</p>	<p><b>【共通】</b>            「主体性保育」の認識理解を深めるため、書籍『子ども主体の保育をつくる56の言葉』（大豆生田啓友著 学研）を全教員に読んでもらい、担当学年毎に話し合う時間を設けた。書籍の具体例やアドバイスを通して、当園や担任学年に必要なこと、取り組むべきことの共通理解ができた。</p> <p><b>【行事】</b>            教員間で、親子の時間が圧倒的に足りていないという実感が強くあった。数年前まで幼稚園で、降園時間も早く、会話からも微笑ましい親子間の濃密な愛情を感じられた。しかし、こども園となり長時間保育、休日保育が必要な子が増え、アタッチメント（愛着）不足が原因と思われる行動や発言が多く見られるようになった。            主体性に重きをおく前に、少しでも親子での時間を増やしたいという教員からの希望があり、うんどう会や参観は親子での活動を重視した。園の行事だけではアタッチメント不足は解消できないが、きっかけや一助になればとの思いであった。他の行事の挨拶やお便りでも、保護者に働きかけた。</p> <p>改善すべき作品展であったが、なかなか子どもが主体的に取り組むことが難しい行事であることを実感した。保護者からの従来通りの行事の希望と、主体的保育を両立させることが難しい。作品展の内容や取り組み方など、根本的に考える必要がある。</p> <p><b>【通常保育教育時間】</b>            1・2学期は、縦割り（学年やクラスにこだわらない）保育を取り入れることができなかったが、学年の中での交流はできた。3学期は、園内で様々な交流を行うことができた。クラスが落ち着かない1学期、行事やイベントの多い2学期は、縦割りが難しいし、無理に行っても怪我や事故になるので、まとめの3学期にできればよいと考える。</p> <p><b>【年長】</b>            自分の思いや希望、経験済みのことは希望したり要望できるようになった。相手の気持ちに寄り添ったり、皆が心地よく過ごすためにはどうしたらよいかを話し合う時間を設けてきた。集団生活の中で、立場を考え、相手を思いやり、行動できるように少しずつ成長している。            失敗してもよい、失敗しても子ども自身が受け入れることができるよう声かけを意識した。また、失敗した原因を一緒に考え、次の方法の工夫や再挑戦、乗り越える経験を共にした。教室毎に、お絵描き部屋、工作部屋、玩具部屋などに設定し</p>

選択しあそび込める環境設定をした。

虫に興味をもち、園庭でダンゴムシを探し捕まえ、お家を作り、餌を図鑑で調べ、顕微鏡で観察し、お家と園を持ち運びながら育てるブームがおきたクラスもあった。

#### 【年中】

子どもたちからの希望は、できるだけ実行できるよう心がけた。

頑張ったこと、一生懸命に取り組んだことの過程、小さな変化や成長をしっかりと認めることを心がけた。

自ら考え選択し決断するためには、保育者の話を落ち着いて聞き取り、ルールを守ることが必要であることを再認識した。そのための伝え方を工夫した。

学年前の廊下に、自由に廃材あそびをする工作コーナーを設けた。はじめは興味を持つ子が少なかったが、1人が作品を完成させると、広がりを見せた。

お絵描きや制作、折り紙など、色や道具を選択できるよう準備した。まだ描き方、作り方が分からない子が多く、主体的に活動できるようなイメージや見本、提案を工夫した。

こどもの「やりたくない」、「今はしたくない」という気持ちをなかなか尊重できないこともあった。活動を区切ったりメリハリをつける難しさを感じる場面もあった。

#### 【年少】

どろんこあそびや外あそびなど、時間をとってあそび込むことを大切にした。屋外での絵の具やしゃぼん玉、園内でのスライム作りや小麦粉粘土など、いろいろな素材に触れる機会をつくり、発見や発展につなげた。

年少2クラスでの混合保育をして、自由に楽しく自ら考えてあそべる時間を増やした。コーナーを設けて区分けをすることにより、よりあそび込めた。

#### 【2歳児】

すぐに答えを出さず、「何をしたい?」と問いかける機会や選択のできる場面を増やした。否定はせず、子どもがやってみたいという気持ちを大切にした。

ケンカやトラブル、多少の危ないことは、すぐに止めず、しばらく見守るようにした。その行動や言葉には意味があり、見守ることで子どもが自分で考え行動できるようになった。どうしたらよかったのか?どんな気持ちになるのかを問いかけ考えてもらった。自分のトラブルも少しずつ解決できるようになり、他人のトラブルも仲裁できる子も増えてきた。

教員とマンツーマンの関わりを求める子が多い。ちょっとした隙間の時間で関わりを持ち、その子の思いに寄り添えるよう心がけた。

給食後の椅子や机の片付け、ゴミ拾いなどもすすんでやってくれるようになった。

朝の会で教員が呼名するのではなく、名前を自分で言うよう

		<p>にした。好きな色や食べ物も言えるようになった。</p> <p>【1歳児】</p> <p>子どもが「やりたい！」と意欲を持ち、あそびや生活に取り組めるよう環境を整え、言葉がけを工夫した。一人ひとりを大切にする保育を心がけ、安心して園生活を過ごせるよう、抱っこなどスキンシップをたくさんとった。制作やお散歩、他の学年との交流など、園でしかできない体験を取り入れた。イヤイヤ期を主体性の芽生えと受け止め、食事や身のまわりのことが出来るようになったときは喜びを認め合うことができた。</p>
教職員の働き方改革	B	<p>様々な面から働き方改革に取り組んだ。多少の改善はみられたが改革とまではいかなかった。そもそも、国の教職員の配置基準が、現場の状況と大きくかけ離れており、限られた予算と人員では難しいというか無理であった。</p> <p>労働時間を短縮し、有給休暇取得を促すため管理すればするほど、不平等が生まれ、不平不満につながっている。</p> <p>そんな中でも、教職員一人ひとりが、子どもたちのため、そして保育の質を高めるために、悩み苦勞し奮闘していることを、保護者や社会に知ってもらいたい。</p> <p>行事の平日移行を行いたいが、保護者からのアンケートや声などから、移行できなかった。園児募集の際に園を選ぶのは保護者であり、保護者のニーズに答えられなければ園の運営維持ができなくなる私立園には難しい。</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や総合的な評価結果

評価	理由
A	取り組むべき課題について、全教職員が共通理解し、実践することができた。

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
主体性を育む ＜5カ年計画 5年目＞	<p>【「主体性を育む」から「子ども主体 ～自分色で輝く～」へ】</p> <p>「主体性を育む」として4年間取り組み、大きな成果があった。計画の最終年度として更に質を高めるため、「子ども主体」へと舵を切る。</p> <p>「こども主体」とは、自主性や積極性というよりも、「その子らしさ」を大切にするもの。よって、当園の建学の精神である「仏の子</p>

	<p>を育てる」という根幹をより推し進めるものである。 一人ひとりの興味や関心に寄り添い、成功体験を積み重ね、自信を持って主体的に行動する姿勢、自分色で輝く子どもを育てる。 また、「子ども主体」とは、子どもが“まんなか”、保育者がサポーターであるという意図が鮮明になり、より子どもが主体的に学びを得ることができるようになることを考える。 「子ども主体」は、これまでの「主体性を育てる」の4年間の積み重ねや試行錯誤がなければ決して成り立たないものである。</p> <p>【教育方針の見直し】 5カ年計画終了後の令和9年度以降も、「子ども主体」に取り組むために教育方針の内容についての見直しを行う。建学の精神である、仏教を軸としながらも、現代に対応した方針内容にする。</p>
絵本	<p>子どもの興味や関心を広げ、語彙力を身につけてもらうために、令和8年度は特に「絵本」を活用する。 毎日、読み聞かせをしたり、絵本や図鑑を読むコーナーを設けているが、発展が見られることが少ない。興味、関心に応じて絵本を用意し、環境を整え、経験の幅を大きく広げたい。</p>

## 6. 学校評議員の評価

<p>令和8年2月14日、学校関係者評価会議（評価委員12名出席）が行われた。評価は下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体性を育てる」について、これまでの4年間の成果がよく分かり、保育の質が向上していると認められる。「縦割り保育」について、こども園となり幅広い年代の子どもたちとの交流ができる。きょうだいが少ない現代において有益な保育である。</li> <li>・「親子のコミュニケーションやアタッチメント」については、行事などを通して更に推進していただきたい。また、保護者対象の講習会や交流会を増やし、理解を深めていただくべきである。</li> <li>・「絵本」の活用については、近隣の小学校でも力を入れている。幼児の時から、読み聞かせなどによって本に親しみ、語彙力や表現力、理解力を高めてもらいたい。</li> <li>・教職員の働き方改革については、当園だけの問題ではなく国の問題である。全日私幼連などから国に更なる働きかけが必要。保育の質を高めることと、保育者の働きやすい環境を維持することが、相反することになっている。子ども、保護者、保育者が「三方よし」となるよう、園としても出来ることから改革して欲しい。</li> </ul> <p>取り組むべき課題について、目標を定め、教職員が共通理解し、実践していると評価いただく。</p>
---

## 7. 財務状況

<p>公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。</p>
---------------------------------------

以上